

貝塚市の海洋プラスチックごみゼロに対する取り組み

貝塚市は水道水の約半分を深井戸から組み上げる自己水で賄っており、その母なる水源は標高858メートルの和泉葛城山を源流とする近木川は、水間寺の下流側で支流の秬谷川と合流し、大阪湾まで流れ下りる二級河川です。和泉葛城山であり、山を下った水は市民の生活を潤し、海に帰る水循環。貝塚市では、和泉葛城山にはブナ分布の南限圏に近い場所で純林が存続することから、1923年に国の天然記念物に指定されており、一昨年天然記念物指定100周年を迎えました。貝塚市の面積約44平方キロメートルのうち、近木川の流域面積は約27平方キロメートルを占めます。



かいづかプラスチックごみゼロ宣言

かいづかプラスチックごみゼロ宣言

近年、不用意にごみとして捨てられるプラスチックなどが、河川などを通じて海へ流れ込み、海洋環境や生物に深刻なダメージを与えており、海洋プラスチック問題への対応が世界的な課題となっています。

2019年G20大阪サミット及び2025年大阪・関西万博が開催されるごとに、二色の浜をはじめ近木川や津田川など豊かな自然環境を有している貝塚市としては、プラスチックごみによる河川や海洋の汚染防止に率先して取り組んでいく必要があります。

このため、大阪府と大阪市が共同で宣言した「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」の趣旨に賛同し、市民や企業等との連携により海洋汚染実態の正しい理解を深めるとともに、河川及び海岸の環境美化運動の実施、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進、紙等のプラスチック代替品活用の促進など、プラスチックごみゼロに向けた取組みを行うことをここに宣言します。

令和元年6月6日



プラスチック資源循環戦略、大阪ブルーオーシャン・ビジョン、おおさかプラスチックごみゼロ宣言を受け、2019年6月6日に「かいづかプラスチックごみゼロ宣言」を行いました。

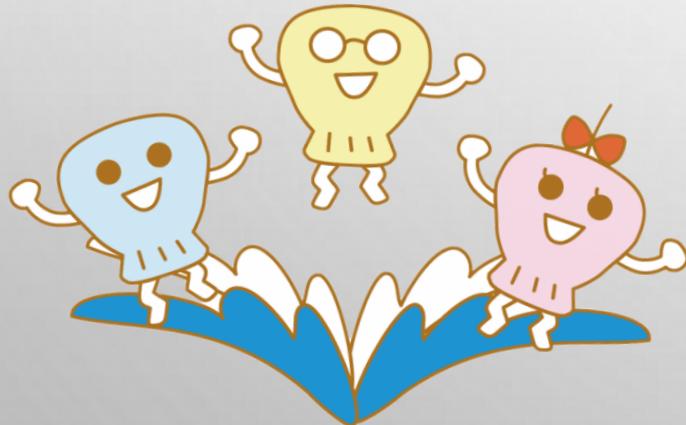


貝塚市が海洋プラスチックごみゼロ宣言を行うようになったきっかけは…



近木川が1993年全国の二級河川の中でワーストワンとなり、市民・行政が一体となり、清掃や水質改善に取り組んできました

大阪湾の海洋プラスチックごみの削減のため、海に流入する近木川や二色の浜で取り組んできた内容を発表します



近木川水質ワーストワンからの脱却を目指して

1993年

水質汚濁の状況を表すBOD(生物化学的酸素要求量)が全国の二級河川の中でワーストワンとなる

1995年
2月

第1回 近木川市民フォーラムを開催

1995年
4月

近木っ子探検隊、
近木っ子会議を結成 活動開始

フォーラムファシリテーター・嘉田良平京都大学助教授「近木川の水質が全国ワーストワンになったのは、貝塚市にとって不名誉なことであり、忘れられた近木川に市民の関心を取り戻さなければならない。」 ⇒市長自らが隊長となり近木っ子探検隊を結成。



近木っ子探検隊
「源流探検」

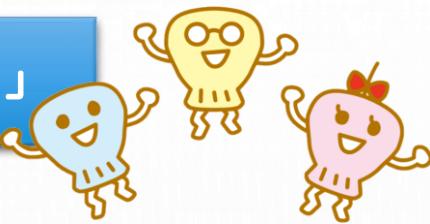


近木っ子探検隊
「活動報告」



近木っ子会議
「近木っ子かわら版」

美しい海を守る市民活動「近木川クリーンキャンペーン」



【生活排水による汚染を減らす】

・1996年、合併浄化槽設置補助金制度を制定し、現在までに479基の浄化槽に対し2億300万円の補助金を交付。
・流しの水切りネット、油取りゴムへら(左図)を推奨し、食物片や油を流さない習慣付けをモデル地域で実施。一定期間の実施によりBODが26%削減された。



【近木川清掃活動】

1999年から大阪府、貝塚市、地域住民が協働で開始。2002年には近木川浄化実行委員会が結成され、清掃箇所が上中流部8カ所に増え、ほぼ近木川全域で実施されるようになり、現在も続いている。



【二色の浜清掃活動】

白砂青松が美しい二色の浜は、毎年多くの人が訪れる海水浴場で、昭和時代から海開き前には地域住民が清掃活動を行ってきた。近年は、民間企業の協力も得て活動しており、今年は約450名が参加した。

○2019年12月「貝塚市海洋プラスチックごみ対策実施計画」策定

○2022年2月「貝塚市海洋プラスチックごみ対策実施計画」改定

○市民・事業者・行政の協力により、3R活動、まちの清掃活動をさらにすすめ、職員のマイバックの活用を率先して行う



二色の浜クリーンキャンペーン
海洋プラスチックごみ宣伝



つげさん海洋プラスチックごみゼロ
KAIZUKA紙袋



つげさん海洋プラスチックごみゼロ KAIZUKA
エコバッグ

具体的な取り組み

I. 3Rの推進によるプラスチックごみの削減と循環型社会の形成

- 廃棄物処理制度による3Rの実施

- ごみ分別の啓発



ごみ分別アプリ
さんあ～る

3. 海洋プラスチックごみ問題の啓発とライフスタイルの変換

- 学校等への啓発活動

- 市広報媒体による啓発活動

- 脱ペットボトルの推進



貝塚市立中央
小学校での
環境学習



貝塚市本庁自動販売機

2. プラスチックごみの海洋への流出抑制

- 河川や海岸、港湾への環境美化活動の推進

- 町会・自治会の水道・道路の清掃

(2024年141町会参加)

- 子ども会の地域の清掃の推進

(2024年5件311人参加)



津田川クリーンキャンペーン

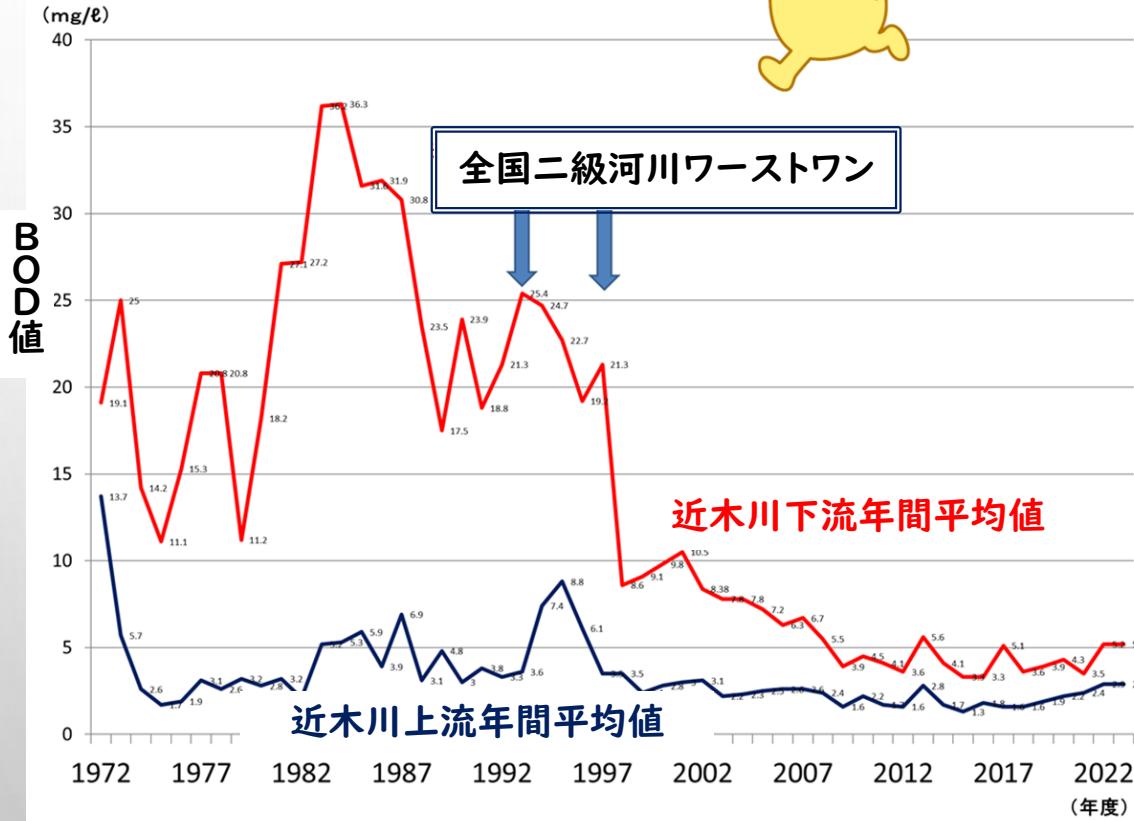
4. 市民、民間団体等との適切な役割分担と連携の確保

- 市民や民間団体、事業者それぞれが積極的な取組みを進める

とともに、連携・協力できるような環境づくりを推進



挑戦の成果と未来の活動



【近木川におけるBOD平均値経年変化】

「忘れられた近木川」に市民が関心を持ち、地道な活動を続けてきた結果、水質が劇的に改善され、2002年には環境基準値を満たす値となり、2009年からは環境基準類型がE類型からD類型に引き上げられた。



Blue Flag for the Blue Earth

世界が認める 安全で美しい海へ



ブルーフラッグとは
ビーチやマリーナ等の持続可能な発展の仕組み

【ブルーフラッグビーチ認証】

近木川から流れ出る二色の浜の水質も改善し、2024年に「きれいで安全で誰もが楽しめる優しいビーチ」ブルーフラッグビーチの認証を取得。認証には、水質・環境マネジメント・環境教育など4分野33項目の基準がある。毎年審査を受け更新するため、常にクオリティが保たれている証である。